

酒造好適米新品種「吟のさと」の 収量性向上に向けた取り組み

峡南地域では、JAふじかわ酒米部会(部会員数:8戸、酒米栽培面積:約8ha)が、富士川町の酒蔵と連携して酒造好適米等の生産に取り組んでいます。

県内平坦地の酒造好適米は、従来「玉栄」が栽培されていましたが、この品種は高温登熟条件下では胴割粒が発生しやすい特性があるため、夏季高温年だった平成22年は、胴割による玄米品質の低下が顕著となりました。

そこで、総合農業技術センター栽培部では、この品種に代わる平坦地向け酒造好適米の品種比較試験を行い、この成果に基づき「吟のさと」が有望品種として選定され、平成24年度には奨励品種に採用されました。

JAふじかわ酒米部会では、平成24年に「吟のさと」を試験導入したところ、胴割粒はほとんど発生せず一等米の玄米品質であることを確認しました。しかし、収量は「玉栄」と比べて少なかったため、収量性を高めるための対策が必要であることも確認されました。そこで、総合技術普及センターでは、収量性向上に向けた実証ほを設置し、栽植密度と施肥体系を検討してきました。その結果、平成24年には基肥に緩効性肥料を配合させることで、穂数が増加し収量性の向上する結果が得られ、今年の実証ほの数を4カ所に増やして、新配合肥料の効果を再確認しています。

今後も、酒蔵や農家と連携する中で、良質な酒造好適米産地となるよう、取り組みを支援していきます。(問い合わせ先 0551-28-2937)



吟のさと施肥体系実証ほ



実需者を交えた現地検討会

「やまなし花フェスタ2014」 が開催されます

山梨県花き振興協議会では、県産花きのPRと認知度の向上を図るとともに、花きの魅力を発信し、花き産業並びに花き文化の発展を目的にやまなし花フェスタ2014を開催します。

日時 **11月21日(金)～23日(日)**
午前10時～午後5時

場所 **ラザウォーク甲斐双葉**
1F ラザコート 2F ラザホール

お問い合わせ先
県花き農水産課
TEL.055-223-1612
FAX.055-223-1615

11月22日(土)には、フラワーアレンジメント教室も開催します。

多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

第3回やまなし発有機の郷推進交流大会 「有機農業の推進について語る会」 が開催されます

環境にやさしい農業への理解と関心を高め、有機の郷(さと)づくりの実現に向け、10月20日(月)午後1時から、甲府市湯村・甲府富士屋ホテルにおいて、第3回やまなし発 有機の郷(さと)推進交流大会「有機農業の推進について語る会」が開催されます。

当日は昨年もお招きした「奇跡のリンゴ」の主人公として有名な、青森県で自然栽培によるリンゴ栽培を実践している木村秋則さん、東北福祉大学の学長 萩野浩基さんの両名からの講演を予定しております。

また、分科会として、全国の有機農業の実践者や研究者の方を講師(アドバイザー)として迎え、専門分野の解説による有機農業などの農法や有機農産物の流通について、参加者の皆様と一緒に学び考えていきます。

参加を希望される方は、事前申し込みが必要となります。

申し込みの方法や、詳しい内容については、**県農業技術課**のHP又は、電話**055-223-1618**までお願いします。

山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

■編集/発行 山梨県総合農業技術センター ■住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105
■Tel.0551-28-2496 ■Fax.0551-28-4909
■URL.<http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/>
■E-mail.sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No.26
平成26年9月20日発行



果樹技術 普及センター

台湾輸出に向けたモモの害虫防除と 適正選果に向けた取り組み



選果研修会での防除指導



台湾当局による査察の対応

果樹技術普及センターでは、モモの販路拡大とブランド化を図るために、台湾向け輸出の促進に向けた支援を行っています。

台湾へのモモの輸出に当たっては、植物検疫への対応が大きな課題となります。そこで、重要害虫のモモシクイガを中心とした害虫が発生しないようにするため、防除指導や、害虫の被害果実を見落とさない適正な選果指導の徹底を進めてきました。

害虫防除の指導においては、モモシクイガのフェロモントラップ調査結果や生育・気象状況(ゲリラ豪雨など)を考慮して防除情報資料を作成し、関係機関と連携し防除の徹底を図りました。

また、適正選果に向けては、研修会を開催し、害虫の生態や防除方法・被害果実の状況などを説明するとともに、選果施設を巡回し、選果行程の遵守や時間当たりの選果量の制限など、検査の徹底を促し、出荷物への害虫混入防止指導を行ってきました。

今後も、関係機関と連携を十分に図りながら、適切な害虫防除指導や選果指導に取り組めます。(問い合わせ先 0553-22-1922)

農作業安全について

収穫作業の最盛期となる9～10月は、農作業安全確認運動の重点期間です。

農作業事故の内、トラクターをはじめとする農業機械の転倒、転落による死亡事故は、全国で年間90～120件発生し、そのほとんどは、普段見慣れたほ場や農道で発生しています。このため、事故が起きても運転ミス等で片付けられてしまっていることも多いと言われています。

見慣れている場所での事故を防ぐためには、「ここでも事故が起きる危険がある」という思いを常に持ち続けることが必要です。

農作業前には作業現場をイメージし、危険要因を予測したり、危険な場所(路肩が崩れやすい場所、見通しの悪い場所、ぬかるみの発生しやすい場所等)を確認しておくなどの対策を取ることが重要です。



雪害対策について

平成26年2月の大雪は、本県を含め、関東甲信地方で農業関連施設に甚大な被害を及ぼしました。

近年の各種気象災害(台風、突風、豪雨、豪雪、猛暑等)の増加している状況を考えると、今後においても本年2月のような大雪を想定した対策は必要です。詳しい内容は最寄りの普及センターへお問い合わせ下さい。

また、次のホームページも参考にして、今後の雪害対策や技術対策に役立てて下さい。

- 山梨県 農作物の雪害に対する技術対策資料 <http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/index.html>
- 農林水産省 平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針 http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/ryutu/pdf/140716_1-01.pdf

花豆の認証出荷が始まりました!

【化学合成農薬・化学肥料3割以上削減】



甲斐のこだわり
環境農産物

甲斐のこだわり環境農産物シールと花豆



認証出荷が始まりました

北杜市清里地区では、高い標高を活かし、花豆の栽培が行われています。この特産品の生産振興を図るため、生産者5名が『甲斐のこだわり環境農産物』の認証出荷に向け取り組みを開始しました。認証を受けるためには、化学合成農薬および化学肥料を県基準より3割以上削減する必要があります。

中北地域普及センターでは、認証制度に必要な花豆の県基準の策定や認証に必要な計画書の作成など、認証に向けた取り組みを支援してきました。その結果、JA梨北（認証機関）の認証を得て、昨年12月から認証出荷が始まりました。

今後も栽培講習会を通じ、認証出荷に取り組む生産者の拡大を図るとともに、産地としてのブランド化に向け、支援していくこととしています。

八ヶ岳山麓で育てた大きな花豆、ぜひご賞味下さい! (問い合わせ先 0551-23-3291)



計画書の作成支援を行いました



企業の視察がありました

ピラミッドアジサイで地域おこし

富士川町小室地区は、県内外から多数の人が訪れるアジサイの名所です。しかし、通常のアジサイでは鑑賞期間が限られていることから、より花を長く楽しめる品種が求められていました。県総合農業技術センターで選定した「ピラミッドアジサイ」は、従来品種の開花が終わる7月以降に開花し始め、その後も、秋の深まりとともに花色が変化し、秋の終わり頃まで鑑賞できる特性があり、早速、これを導入することになりました。



地元住民を対象とした挿し木講習会



出荷に向けた現地検討会



ピラミッドアジサイの開花の様子



品質向上のため、雨よけ施設とネットの設置

地域住民とともにアジサイの管理を行っている「日出づる里活性化組合」では、おととしから県花き連の研究会への参加や現地検討会を行い、ピラミッドアジサイの栽培について勉強を重ね、今年度は大きく見応えのある花を咲かせることができました。

今後は挿し木による苗の増産、境内への飾花と新たなイベント等の企画、また市場出荷にも挑戦する予定です。普及センターでは、今後もアジサイ等を活用した地域おこしへの支援を継続し、地域の活性化につなげていきます。(問い合わせ先 055-240-4131)

果樹農家の所得向上を目指して

峡東農務事務所では、平成22年度から、直売所を活用した果樹農家の所得向上を目指して、JAフルーツ山梨が実施している「野菜栽培営農講座」の開催を支援しています。

講座は実習を中心としており、栽培の基本をはじめとして、育苗方法や被覆資材を使った病害虫防除、小型ハウスやトンネルを利用した周年栽培、直売所出荷農家の見学、直売所での売れ筋品目の分析など、野菜栽培初心者の方が、直売所出荷に向け取り組んでいくのに役立つ内容となっています。

今年度も、4月の開講式に約20名の受講者が参加し、講座がスタートしました。講座の受講生からは、実習の内容以外にも、自身の栽培品目に関するいろいろな質問もあり、活気のある講座となっています。また、農産物直売所への出荷に新たに組み込む農家も出ており、今後、直売所への野菜出荷による果樹農家の新たな所得確保が期待されています。

(問い合わせ先 0553-20-2830)



直売所出荷農家のほ場を見学



葉物野菜の種まきを実習



アッサムニオイザクラ研究会の 販売力強化に向けた取り組み

富士北麓地域では花き生産農家が多品目の花を生産し、県内でも有数の花き産地を形成しています。中でもアッサムニオイザクラの生産量は全国一位を誇っています。その生産者で組織する「アッサムニオイザクラ研究会(13名)」では、生産技術や鉢花品質の向上に向け、常日頃から研鑽を重ねているものの、近年の鉢花単価の低下や燃油高騰等に伴う収益率の悪化が顕在化してきており、この対策が求められています。

そこで、当普及センターでは総合技術普及センターとともに、研究会員が育成した新品種「紅富士」が、今年から本格出荷を迎えることを契機に、有利販売に向けた共同受注や共同販売の体制づくりを支援してきました。具体的には、市場商談会への出展や市場関係者を呼んでの現地商談会等の様子を産地情報として積極的に発信し、「品質が均一で安定している産地」であることをアピールしてきました。その結果、このことが市場関係者へも周知され、有利販売に向けた体制づくりに結びついています。

当普及センターでは、引き続き、市場と産地をつなぐ支援を行い、アッサムニオイザクラの更なる販売力強化につなげていきます。(問い合わせ先 0554-45-7832)



市場展示会にて産地情報を発信



市場関係者を呼んだ現地商談会



「紅富士」従来よりも花色が濃く花落ちがしにくい